

防災訓練を行いました

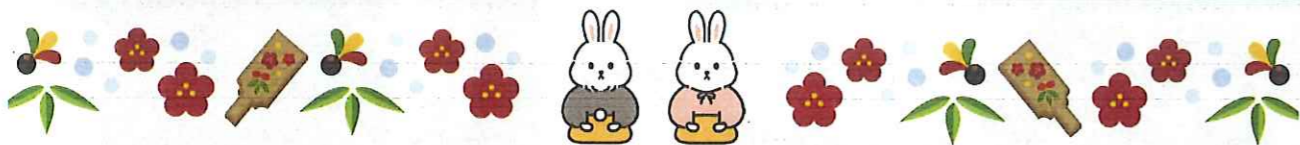
10月28日（金）に令和4年度防災訓練を実施しました。今回の訓練では、東京湾北部で大規模地震が発生したと想定し、災害対策本部の立ち上げと、本部における情報収集活動、各部署から本部への被害状況報告について訓練を行いました。

本部では各部署からの被害状況報告を収集し、院内の状況をすみやかに把握しました。



新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために病院全体での大規模なトリアージ訓練を実施することは難しい状況でしたが、災害発生時にとるべき初期対応について改めて確認することができ、災害対応能力の向上を図る大変よい機会となりました。

本部から在院のスタッフに様々な役割を与え、各部門が連携して情報収集に努めました。



明けましておめでとうございます。

2022年は新型コロナウイルス感染やウクライナでの戦争、インフレによる物価上昇など暗い話題が多くありました。しかし、11月に開催されたサッカーワールドカップでは我ら日本代表が強豪国ドイツとスペインを破り日本中が熱く興奮させられましたね。特にスペイン戦での三笥選手の最後まで諦めない姿勢が日本の勝利を導きました。改めて何事も諦めない姿勢の大切さを感じさせられたシーンであったと思います。自分には2人の子供がおり、これからの人生苦労や壁にぶつかった時にはあのシーンを思い出すように伝えました。

年が明け、本年の干支は卯です。兎は跳躍する姿から飛躍、向上、成長を象徴するものとされているそうです。新しいことに挑戦するのに最適な年と言われています。昨年できなかった事や今までやりたかったけどできなかった事などに挑戦をするのもいいかもしれませんね。

皆さんにとって飛躍の一年になりますように！

整形外科 准教授 白旗 敏之



昭和大学江東豊洲病院だより

2023年1月号

第105号

巻頭言

新年のご挨拶

病院長 笠間 毅



新年おめでとうございます。皆様におかれましては健やかなる新春をお迎えされていることと思います。

2023年になるも未だコロナ禍は収束しておらず、当院のみならず我が国は第8波に対峙しています。ただ幸いなことには、ウイルスの感染力は上がりましたが患者さんの重症化率が低いままです。院内、院外ともに感染症に対する緊張の中、職員の皆さんの真摯な対応に感謝いたします。

当院は2014年に開院してから今年3月で10年目を迎えます。10年という単位は昔から十年一昔と言われるように、また英語でdecadeという一つの単語があるように、区切りのいい期間です。病院としては円熟期に入りさらなる飛躍を期する時期と考えます。中国・漢の時代の古い書物の中に

『一年先を思いは花を育て、十年先を思いは木を育て、百年先を思いは人を育てよ』という言葉があります。当院ではこれまで院内の人材の育成や教育についてはいろいろな計画を立てて進めてきたつもりです。花を植え大きな木まで育てあげたであろう今、この先100年を目指し当院のみならず様々な医療現場で活躍できるような信頼される優秀な医療人が育ち飛躍できることを期待し願っています。

また医療現場における働き方改革の2024年の仕上げの時期も間近に迫ってきました。この流れにもしっかりと答えながら、働いているすべての職員の皆さんが希望に満ち誰に対しても誇れるような病院にしていけるよう皆さんとともに協力しながら頑張っていきたいと思います。

昨年には当院にとって嬉しいニュースが飛び込んできました。念願であった地下鉄（有楽町線）の江東区中心部への延伸計画が確定しました。

さらに昨年末には別の新しい地下鉄として東京駅から有明までを結ぶ臨海地下鉄の計画も決定しました。江東区の南部に位置する当院にとっては、この二つの路線により区の北東部などから、さらには東京以北からの患者さんの江東豊洲病院への来院が容易になることが期待されます。江東区のみならず中央部の医療圏までも網羅した中心的な医療拠点として、多くの医療機関の先生方と患者さんのご理解とご協力、またさまざまなご指導などいただきながら期待や信頼に応えられるよう気を引き締めて病院の運営に努めてまいります。

この新しい年が皆様にとりましてさらに輝ける年となりますよう心よりお祈りいたしまして、私からの年頭のご挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願いいたします。



当院のシンボルツリーであるセンパルセコイアも大きくなりました。



第105号のトピックス

- ・新年のご挨拶
- ・放射線技術部紹介
- ・しのめYMCA こども園と交流しました
- ・江東シーサイドマラソン 医療活動報告
- ・防災訓練を行いました
- ・編集後記



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38

TEL03-6204-6000(代表)

発行責任者：笠間 毅 編集責任者：大槻 克文



昭和大学江東豊洲病院 Facebook ページ

Showa University Koto Toyosu Hospital

Pick up

放射線技術部紹介

放射線技術部 技師長/崔 晉五

放射線技術部は、25名の診療放射線技師にて放射線技術の専門知識を生かし、医師、看護師と連携し画像検査や放射線治療業務に取り組んでいます。

業務としては、X線撮影、病棟撮影、骨塩定量検査、乳腺撮影検査、X線透視検査、CT検査、MRI検査、IVR検査、核医学検査、放射線治療等を行っています。また、手術室においても放射線機器を使用する手術に関しては、業務にあたっています。



乳房撮影検査

X線透視検査

MRI検査

放射線検査の説明、診療画像の提供、3D画像などの作成、STAT画像報告および病院内すべての放射線検査・治療に関わる放射線機器、被ばく線量の管理なども行っています。

また、検査・治療には、各モダリティの専門技師・認定技師を配置しています。

2020年7月から最新鋭の超高磁場3.0T(テスラ)MRI装置が稼働開始となり、更新前の1.5T装置よりも分解能、画質等が向上し、質の高い効率的な検査が可能となりました。

装置の更新に伴い検査室天井に、視覚的刺激に対する人間の知覚と認知のメカニズムを応用し、芸術とテクノロジーの融合した疑似天窓をモチーフにしたLED天井照明を取り入れ、不安やストレスの軽減といったリラクゼーション効果により、リラックスして検査を受けていただくことが可能となりました。



MRI検査室



放射線治療

IVR検査

また、放射線治療では強度変調放射線治療(IMRT)、画像誘導放射線治療(IGRT)、定位放射線治療(SRT)などの高精度放射線治療システムにより、先進的な放射線治療を安全に受けていただくことができます。

診療放射線技師は、病院の理念「まごころの医療」、「安全・安心の医療」、「地域と連携する医療」、「医療人の育成」に即し、安全・安心な放射線検査・放射線治療の提供を目指し日々の診療に従事しております。また江東区の唯一の大学病院放射線技術部として、大学病院の役割である「診療」、「教育」、「研究」に取り組んでいます。

放射線の専門家として放射線機器全般の管理を行い、患者さんに安心して検査・治療を受けて頂ける様に、常に安全で最適な環境を整えてまいりますので、放射線技術部をよろしくお願いいたします。



放射線技術部スタッフ

Report

しなのめYMCA こども園と交流しました



11月14日(月)、しなのめYMCAこども園(江東区東雲)にて、園児を対象に医療系の職業紹介と救急車への乗車体験を行いました。

園児からの質問コーナーでは、「先生、いつねるの?」「ごはんはどこで食べるの?」と、先生たちを心配しているかのような質問に、少し困惑しながらも丁寧に回答をしていました。

最後には、園児全員が救急車に乗って「すごい」「ベッドがあるね」とビックリしたり、普段見ることのできない救急車内を見学できてみんな興味津々でした。



12月14日(水)にはそのお礼として園児からクリスマスオーナメントをいただきました。オーナメントは院内のクリスマスツリーへ飾り付けました。



オーナメントをいただきました



正面入口クリスマスツリー

江東シーサイドマラソン 医療活動報告



11月27日(日)に行われた第40回江東シーサイドマラソン大会へ当院泌尿器科 森田将准教授が派遣され、コース内で救急車が入ることが難しい箇所での傷病者の医療救護活動を行いました。当日は天候にも恵まれ、重傷者の発生もなく無事に大会は終了しました。

